

AMERICAN LIFE REPORT

キャズ・カワゾエ

KAZ KAWAZOE

の

アメリカン・  
ライフ・  
レポート

留学



就職



生活  
事情



三修社



留学  
就職  
生活事情

アメリカン・  
ライフ・  
レポート

キヤズ・カワゾエの

## アメリカン・ライフ・レポート

——留学・就職・生活事情

一九九六年五月二五日 第一刷発行

著者 キヤズ・カワゾエ

発行者 前田完治

発行所 株式会社三修社

〒一〇 東京都台東区下谷一―五―三四

電話 営業部 〇三―三八四二―一七一

編集部 〇三―三八四二―一六三

編集担当 澤井啓允

印刷 住友出版印刷株式会社

製本 有限会社葵製本所

著者／  
キヤズ・カワゾエ (KAZ KAWAZOE)  
一九七六年、UCCLAに夏期留学をしたのち、翌七七年よりロサンゼルス郊外のフリントリッジ聖心学園に留学。南カリフォルニア大学 (USC) 理学部三年のときにヨーロッパ、アジアで歌手・作詞家としてデビュー。そのご日本に一時帰国し、作詞家、音楽ジャーナリスト、ラジオDJなどで幅広く活躍。現在はロサンゼルスでコラムニストなどの執筆業のかたわら、理学部時代の知識と、学位を持つコミュニケーション部での経験から、医科・理科系専門の技術通訳としても活躍中。全米作詞作曲家協会認定作詞家。日本音楽著作権協会準会員。著書に『アメリカの愛の詩』ヒット曲を英語で聴く』（講談社）

©Kaz Kawazoe 1996 Printed in Japan  
ISBN4-384-01051-6 C0095

図<日本複写権センター委託出版物>

本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

# まえがき

日本のバブル経済が崩壊してから数年。少しは景気も回復してきたと言われるけれど、まだまだ不景気の色濃い日本経済。そして相変わらずの不景気の大国、アメリカ。

それでも毎年アメリカに留学してくる人の数は増え続け、現在わかっているだけでも、全米に散らばる日本人留学生の数は、なんと四万人を越すという。そして、それらの留学生に一番人気の留学先が、わが街、ロサンゼルス。

いまや留学と一言で言っても、その方法はさまざま。で、私が留学してきた七十年代後半とは打って変わって、バラエティーに富んでいる。また以前は、留学後は日本に帰るのが留学生の当たり前だったのに、ここ数年、卒業後のアメリカでの就職を希望する留学生も増えてきた。そんな現実とニーズに答えて、一九八九年九月から、一九九四年一月にかけての約四年半にわたって学生援護会出版のアルバイト誌『テイリアン』(現在の『an』) 関東版に掲載されたウイークリー・コラム『こまねずみ通信』LA就職・留学リアルタイム情報』を編集し、一冊の本にまとめたのが、本書なのです。

留学生としてこの街にやってきて暮らし始め、途中三年ほど東京で仕事をしたとはいえ、

今年で渡米して通算十九年目になる私は、このロサンゼルスという街で暮らした時間が、日本のどの街で暮らした時間より、長くなつてしまつた。そんな私がおくる、アメリカン・ライフ・レポート。

実に私が一九八九年、東京での仕事にけじめをつけ、アメリカに戻り、ずいっと休学中だつた南カリフォルニア大学に復学し、押し寄せる年波にもめげず、はるかに年下のアメリカ人学生たちに混じつての卒業までの奮戦記に始まり、卒業後にアメリカでの就職を希望する留学生には避けて通れない、ビザ問題との戦い。そして超不景気のアメリカでの、外人としての就職問題をはじめ、留学生たちのアルバイトの現状や、永住権の取り方など、私の実体験を織り交せて、盛りだくさんの内容を用意しました。

またロサンゼルスで暮らしていくのに知つておいて得な情報なども、読み物としてたくさん詰まつた本書は、これからアメリカに留学したい人だけではなく、暮らしてみたい人、働きたい人には、きつとお役に立つてしよう。

とにかく『テイリアン』誌上で掲載が始まつた当初から、いつかロサンゼルスの留学・就職、そして生活に関する一冊の本にしたいと思ひ、連載中、考えられる限りのアングルから、自分の生活を通して役に立ちそうな話を書き続けました。

連載終了から二年が経つてしまいましたが、今読み返しても、ためになる情報でいっぱいだと自負しております。楽しみながら読んでください。

# もくじ

## 第1章

### “留学の達人”キャズのアメリカン・キャンパス・ライフ

- その1 大比較 USC対UCCLA 2  
ロサンゼルスのカロス・タウン・ライバル 2  
両校の仲の悪さは有名 6
- その2 留学生必須十二単位 9  
単位とりの真剣勝負 9  
アフター・クラスは最高 13
- その3 成績のつけ方とGPA 15  
重要視されるGPA 15  
生徒全員に知らされる成績のつけ方 17  
最後まで苦しめるアメリカの大学 21
- その4 卒業式はビッグ・イベント!! 24

招待状を出す、アメリカの卒業式 24

卒業式の二日前まで期末試験 28

人の多さにびつくりの卒業式 29

●その5 ハイスクール・メモリー 32

必ずカッブルで参加の“ブラム” 32

アフター・ブラムは無礼講 34

もう一つのイベント“グラッド・ナイト” 37

## 第2章

### ロサンゼルスでの留学事情

●その1 人気の留学先ジュニア・カレッジ 40

留学生の約半数は日本人 40

島国根性から抜け出そう 43

●その2 キヤズの留学相談 45

勧められないジュニア・カレッジ留学 45

目標、目的にあつた留学先を探そう 48

アメリカの短大の中身について 51

実用的なサーティファイケート・コース 55

●その3 考えモンの『好奇心留学』 59

はつきりしない『留学する理由』 59

女の子向きじゃない『好奇心留学』 62

●その4 留学バイト事情 67

危険なバイトしながらの留学 67

留学生とバイトの話 70

●その5 仕送りとバイト収入 72

親の援助は不可欠 72

月収十万は無理な話 75

第3章

働くためのビザと永住権

●その1 労働許可付き学生ビザ 80

労働許可のパターン 80

学生ビザ、F-1のとり方 82

●その2 抽選くじで当たる永住権 84



偽造結婚も永住権取得のため 84

申込者先着順のA A 1 86

一年間の雇用証明が必要 89

永住権をもらうまでの手続き 91

新しい抽選プログラムの開始 93

●その3 移民法改正で変わった学生ビザ 96

移民法と弁護士 96

ここが変わった改正移民法 97

観光ビザから学生ビザへの切り換え 99

●その4 合法的に働こう 101

不法労働者にならないように 101

#### 第4章

### アメリカでの就職について

●その1 就職するための準備 106

アメリカ版履歴書の作成 107

CDCで会社の情報を入手 112

|      |                    |     |     |
|------|--------------------|-----|-----|
| ●その2 | キヤズの就職奮戦記          | 1   | 114 |
|      | 永住権をとるまでの会社勤め      |     | 114 |
|      | 就職先が決まらずに困った       | 117 |     |
| ●その3 | キヤズの就職奮戦記          | 2   | 121 |
|      | 就職が決まった            | 121 |     |
|      | 三カ月で辞めた会社          | 124 |     |
|      | けっこうキビシイ買い手市場の就職状況 |     | 128 |
|      | 再就職のための裏ワザを考案      | 130 |     |
| ●その4 | キヤズの就職奮戦記          | 3   | 134 |
|      | ピリオドを打った再就職への道     |     | 134 |
|      | 日本語のビジネス専門誌を出す会社   |     | 137 |
|      | 休暇をとるにも根性がある       | 140 |     |
| ●その5 | 初体験！ アメリカの所得税申告    |     | 143 |
|      | アメリカ式はすべて自分で申告     |     | 143 |
|      | アメリカの税金は高い         | 147 |     |

第5章

アメリカ・シティー・ライフ・アラカルト

●その1 旅行者事情今昔

街中がジャパニーズでいっぱい 152

雨はサンフランシスコの名物 157

●その2 私の住むアパート

駐車場付きて月七百十ドル 160

メンド臭い「引つ越しの手続き」 164

●その3 アメリカの社会事情

リサイクル精神のたくましさには感心 167

アメリカのテレビはおもしろい 171

ロサンゼルスでは車は必需品 174

黄色いリボン——戦争と平和 177

ロサンゼルスの大暴動 180

ロサンゼルス大暴動のその後 183

深刻なエイズ問題

186

●その4 アメリカの結婚式

189

付録

キヤズの英会話上達法

バラエティーに富んでる結婚パターン 189

安い・早い！ ラスベガスでの結婚 191

ここが違う、アメリカの結婚祝い 195

●その5 アメリカおもしろイベント・アラカルト 200

女の子の憧れ、バレンタインデー 200

「ベビー・シャワー」ってなに？ 203

全米挙げての仮装大会「ハロウィン」 205

ふざけたイベント、デューダパレード 210

十二月はクリスマス 212

宝くじの賞金なんと五十億！ 213

ただの祝日みたいな元旦 215

●その1 キヤズの英会話・序章 220

●その2 キヤズの英会話・基本編 223

●その3 キヤズの英会話・応用編 225

|        |             |     |
|--------|-------------|-----|
| ● その 4 | キヤズの英会話・完結編 | 227 |
| ● その 5 | キヤズの英会話・付録  | 229 |

第1章

“留学の達人”キヤズ

アメリカン・キャンパス・ライフ

●その一

# 大比較 USCC対UCLA

## ロサンゼルスのカロス・タウン・ライバル

夏休みが終わって、約二カ月ぶりに大学へ行ってまいりました。アメリカの学校の夏休みはだいたい三カ月あるのだけれど(羨ましいでしよ)、今年の夏、短期集中講座をとった私にとっては二カ月ぶりとなるわけで、夏期講座には一部の学生しか参加しないので、本当のイミでの「大学生活」という雰囲気に戻ったのは、実に三年半ぶり(ずっと休学して日本で仕事をしていたからネ)。

トラックではわがUSCC(南カリフォルニア大学)自慢のトロージャンバンドが、きたるフットボールゲームに向けて、私にしてみたら涙がでるほど、うれしなつかしトロージャンマーチの練習をしていて、USCC応援のアクション(手を上げて、人差し指と中指を立てて、肘から上を振る)を思わずやりたくなってしまった(実際、トラックのまわりで見学している者のなかには、この応援アクションをしている学生も多かったです)。

ああ、USCCのキャンパスだなあ、などと思いつつ、残り少ない学生生活を思うと、少し淋しくメロウな気分に戻ってしまった私です(なんせ入学したのが七九年のことですか

ら……休学、復学をくり返して、足かけ十年の大学生活!!。

しかし、トロージャンスピリット（USCの学生としての心意気みたいなもん）とは大したもので、トロージャンバンドの音を聞くと、『今年もローズボール行ってくれよお、UCLAをぶち負かせよお』などと思わずつぶやいてしまいたくなるのです。

ローズボールといえば、ロサンゼルスっ子たちにとって、お正月一番のビッグ・イベントといえる、カレッジフットボールゲーム（毎年元旦、バサティナにおいて、ローズバレーDの後に行なわれます）。全米大学中の、PAC10リーグとBIG10リーグの前年度の優勝校同士で行なわれるこの一戦は、日本の高校野球、夏の甲子園なんて比じゃないくらいの大人気。それこそロサンゼルスの中中で盛り上がります。チケットだってローリングストーンズ並みに跳ね上がるしね。とにかく、見逃せないイベントなわけ。

でも、私たちUSCの生徒たちにとって大切なのは、ローズボールはともかく、対UCLA戦。日本ではUCLAのほうが有名だけど（なんせNCAAと提携して、Tシャツとか売つてもーけるから）、地元じゃUSCのほうがエライんだぞ!!

とにかく全米で、一つの街にフットボールチームつきのメジャー大学が二つあるのは、ここロサンゼルスだけ。クロス・タウン・ライバルと呼ばれて、何かにつけて比べられます。日本では、UCLAのほうが有名なので、USCの学生の私としては、USCのほうが実はすばらしい大学である、とゆる『正しい認識』を一人でも多くの人に持ってもらいた



いわけで、アメリカにおいて、“I'm a student of USC”の一言が、水戸黄門様のインローのごとく、人からの尊敬を集められるほどパワフルな部分、わかって欲しいんですね。

まず、ロサンゼルスの人々の第一印象として、両方ともそれは程度が高く、良い大学である、というのには当たり前で、ただ、USCに行っている」というと、あ、お金持ちの子なんだ」と、間違いなく思われる。

まずUSCの歴史と伝統の古さはともかくながら（一八八〇年創立。UCLAは一九二九年）、USCの学費の高ことは有名。USCでは一年間の学費がだいたい二万ドル。これが理系だとあと二千ドルくらいかかるし、医系だと二万五千ドル以上になっちゃう。でもって、UCLAだと一年で四千ドルくらい（ゼロの数が一コ少ない！）。まあ、USCは私立でUCLAは州立だけど、なんとUSCの学費は約五倍もUCLAより高いのです（注…このUCLAの学費はカリフォルニア州居住者が対象で、留学生には非居住者料金が加算される）。

両校ともアメリカでは最上級の大学だから、頭が良くなきゃ入れない。でも、お金持ち（良家）のお譲さま、おぼっちゃまは、同じレベルの人をご学友に持ちたいから、UCLAに受かってても必ずUSCに来ます。とにかく、USCの学生に一番乗られる車はBMWですもん（実は私も318iに乗っている）。

特にUSCの場合は、日本の慶応みたいな感じで、お父さんもおじーちゃんも、一族み